

2019 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	生きる力を育む研究会
活動テーマ	コミュニティ生成型防災事業LODE(ロード)をより発展させた『障がい者を理解するためのチャート図』の普及活動





【質問A:「避難時に持って行きたい避難物資等」の内容を教えてください。色別のポストイットに幾つでも書いてください。】

① 食べ物 飲み物	② 衣類 衛生用品	③ 医薬品	④ その他
-----------------	-----------------	----------	----------

【質問B:「避難所や公共が用意しておいて欲しい物資・設備等」、或いは逆に「嫌いなもの、あると危険なもの」を教えてください。色別のポストイットに幾つでも書いてください。】

① 食べ物 飲み物	② 衣類 排泄・衛生用品 関連設備・器材	③ 医薬品 関連設備・器材	④ その他	⑤ 嫌いなもの 苦手なもの
-----------------	-------------------------------	---------------------	----------	---------------------



まず、本活動の目的は、「障がい者等の理解を促すために開発したチャート図」によるワークショップの普及を図り、コミュニティの中での障がい者等への理解促進と、対応力の増進を図ることである。

本年度の主な取り組み内容は、主として兵庫県伊丹市の二つの地区(南小学校区と有岡小学校区)や小野市において、地域の住民リーダー層を対象に、ワークショップや研修会を実施した。

まず伊丹市においては、特に南小学校区において、学校区全体でのリーダー層ワークショップと2つの自治会でのワークショップを開催することができた。稲野自治会は自治会ワークショップを2回開催し、林自治会では1回のワークショップと1回の介護移乗研修会を実施することができた。この2つの自治会では次年度以降も継続して取り組むこととなった。加えて、さらに2つの自治会が次年度取り組みを開始する予定である。

次に小野市では、全市の住民リーダー層を対象に研修会を実施するとともに、障がい者作業所において「障がい者の災害時避難行動支援」について考える研修会を実施することができた。

また、これら今年度取り組みを通じた技術的な成果として、「障がい者等の理解を促すためのチャート図」を利用したワークショップの実践方法に加え、個々の障がい児・者の抱える困難や事情、特性等を理解するために、新しいワークショップのメニューとして「避難時に持っていきたい避難物資調査」等を考案することができた。

さらに、最大の要支援対象というべき要支援・要介護高齢者を支援する力を養成するために、「認知症・老いと向き合うためのチャート図」も開発して、今後の『地域会議』というワークショップの展開を提案することもできた。